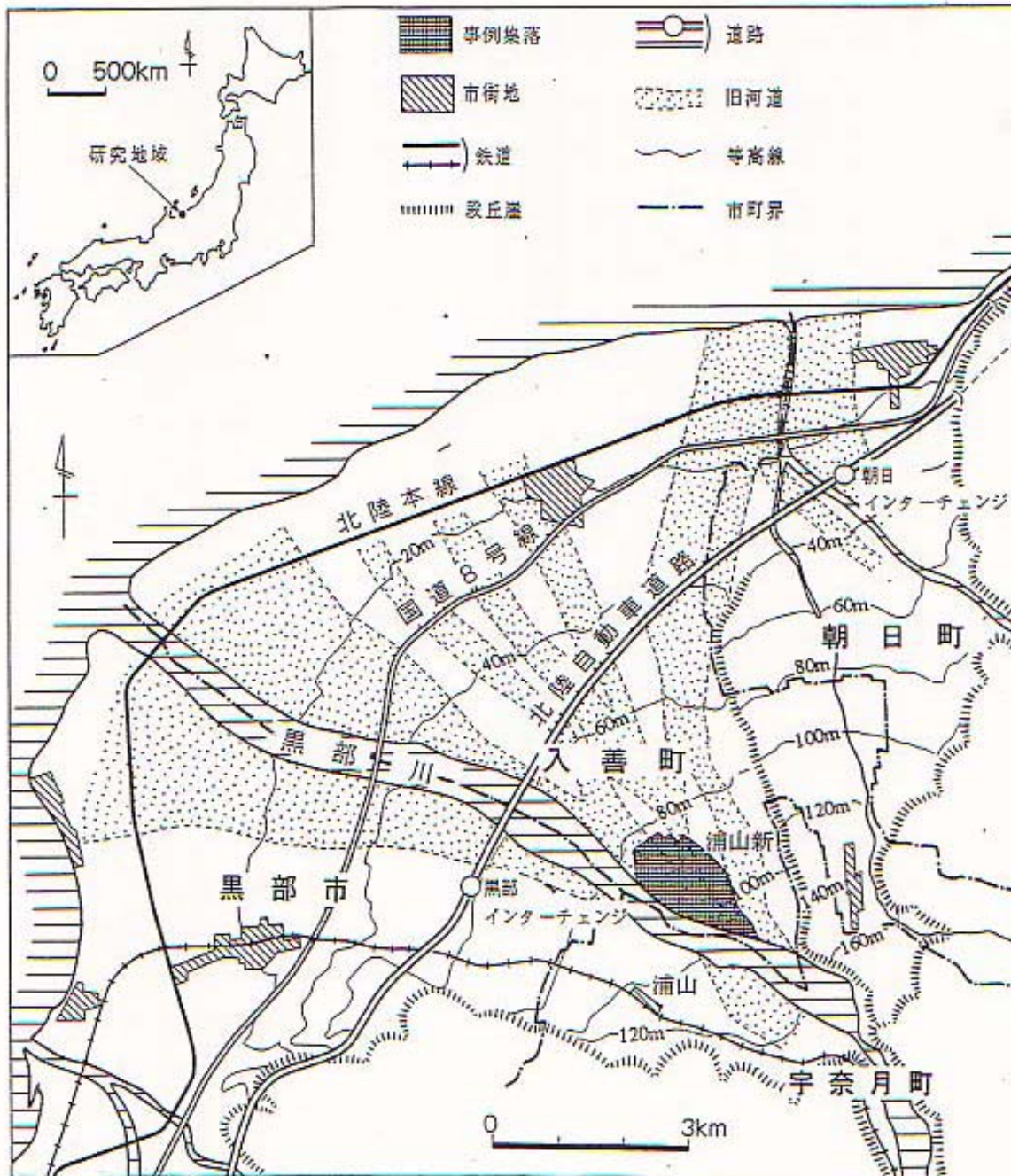


# データ取得の体系化

ー農業・農村地理学のフィールドワークー

報告者：田林 明

1. 農村変貌に関する調査手順ー富山県黒部川扇状地を事例としてー
2. 山形県朝日町におけるエコミュージアム活動による地域振興に関する調査手順
3. 茨城県守谷市における新しい都市景観の形成に関する調査手順



黒部川扇状地の旧河道と入善町浦山新地区の位置

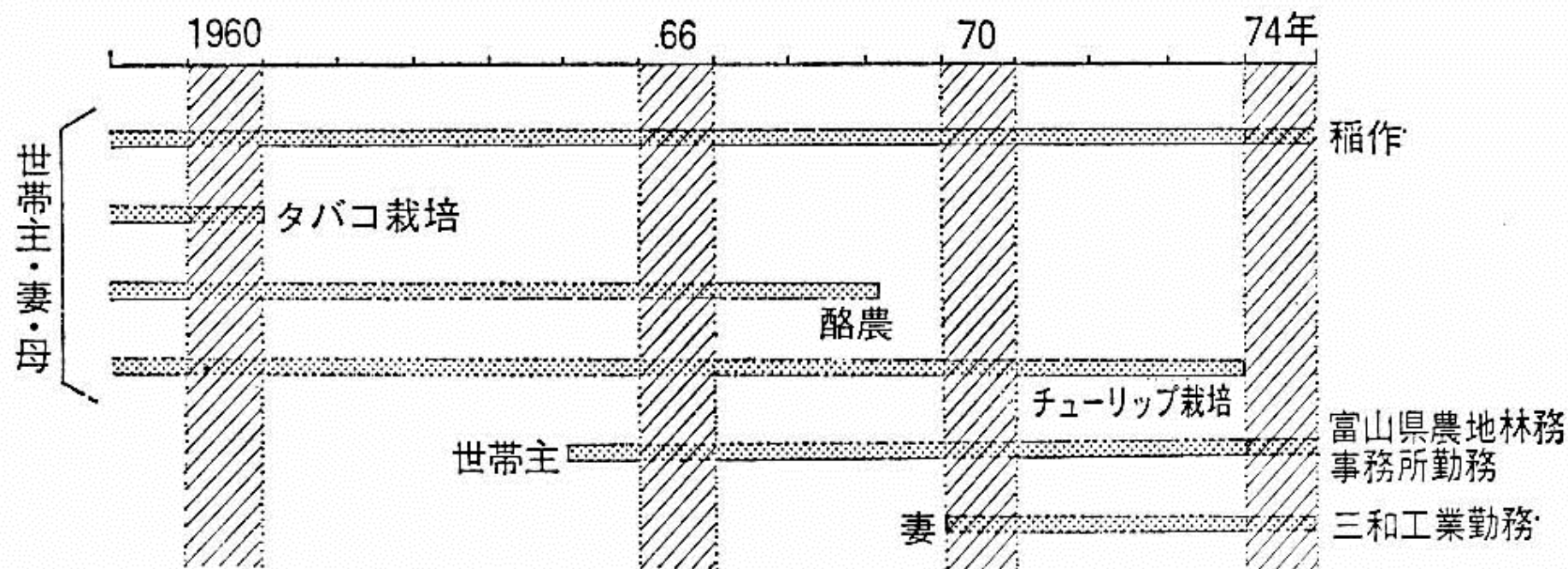
# 調査のプロセス(1)

- 農業水利の調査をやっていた。→うまくいかない。
- 農民は当面の関心事である圃場整備を語りたがった。
- 高度経済成長期における農村変貌は、当時の農村地理学の課題としては、重要なものであることに気づいた。
- 圃場整備事業を契機とした農村変貌を課題とした。
- 農業水利で調査した4つの集落の中から、圃場整備の時期が早く、親切な人がいる集落を選んだ。
- 闇雲に農家で聞き取りをやるが、農家の変化をどのように整理するかわからなかった。
- ある農家の事例が、農村変貌の基本的なモデルとなると考え、研究を進めるための道筋をつくってくれた。



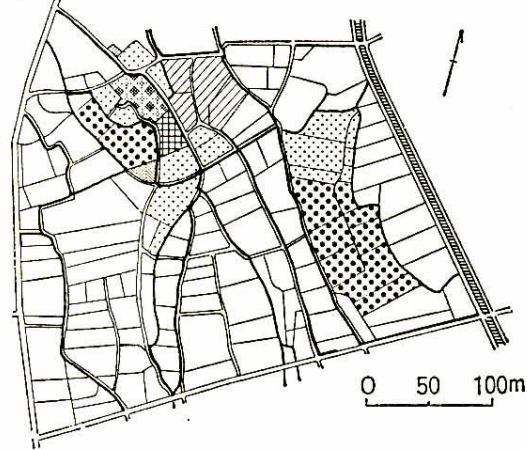
農村変貌のイメージをつくってくれた人(2002年8月)

# A農家の就業変化

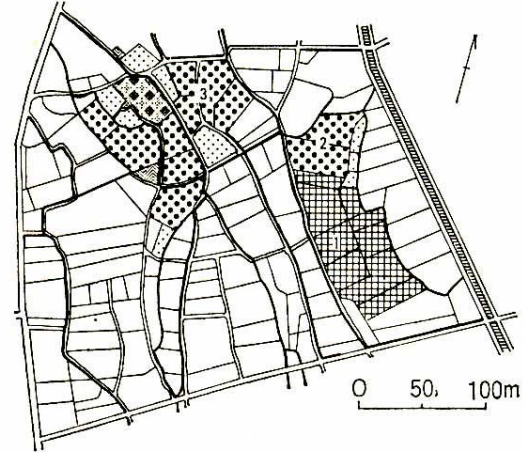


# A家の土地利用変化

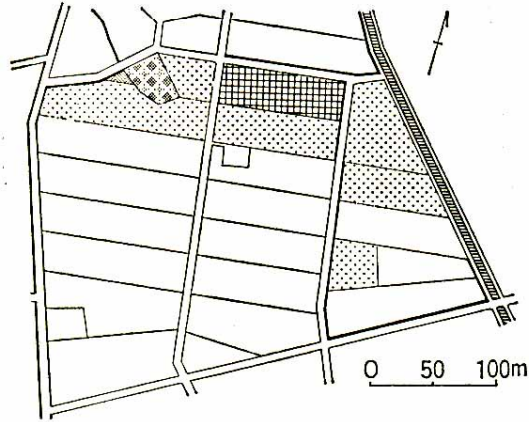
(A) 1960年



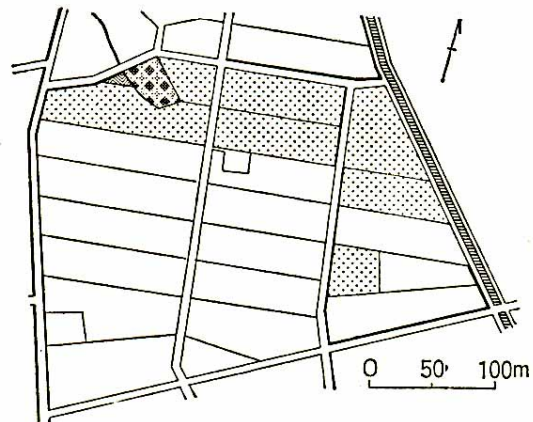
(B) 1966年



(C) 1970年



(D) 1974年



## 調査のプロセス(2)

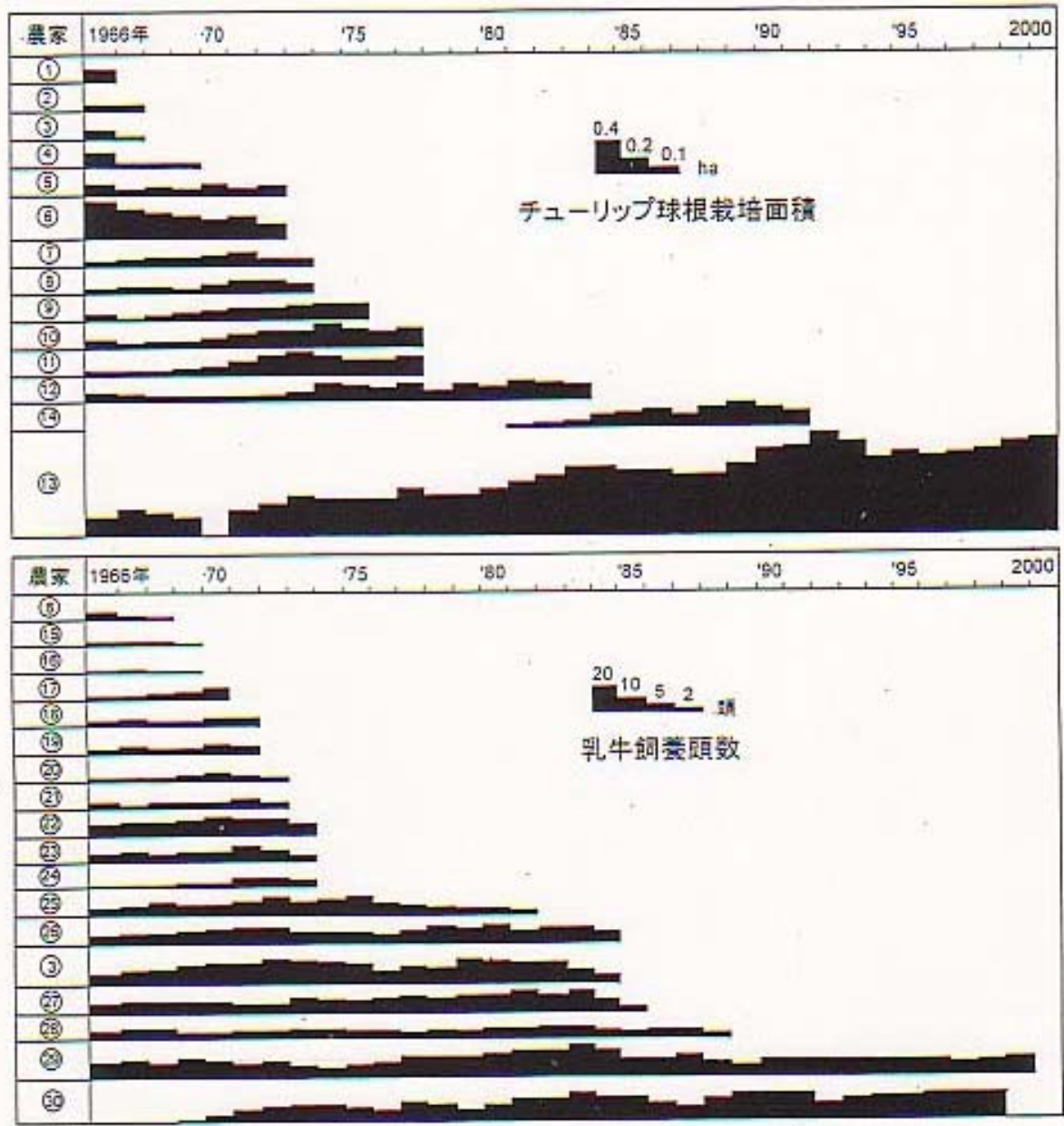
- 小地域の実証的研究では、イメージづくりが重要である。
- モデルとなった1つの農家で明らかになった景観と就業のデータについて、集落あるいは黒部川扇状地全体のものを集めることにした。すなわち、イメージを実証することにした。
- 稲作の省力化(土地改良区)、チューリップ球根(球根農協)と酪農(酪農農協)の変化のデータを収集する。
- 就業構造の調査、1967年は役場の資料、それ以降は聞き取り調査による。データの整理と図化(Cloutのまねをする)。
- 世帯単位の就業の組み合わせとその変化という形で、農村変貌を記述することにした。

# 稲作所要時間の变化

	1965年		1971年		
	新屋地区	富山県	新屋地区(平均)	新屋地区(最低)	富山県
	時間	時間	時間	時間	時間
種子予措	0.5 人力	0.3	—	—	0.4
苗代一切	6.0 共同苗代	5.8	6.0 育苗室	4.0 育苗センター	4.7
本田耕起 本田整地	11.5 人力, 耕耘機	18.6	5.1 人力, トラクター	2.1 人力, トラクター	11.1
元肥	3.7 人力	7.1	1.7 人力	1.2 人力, 撒布機	3.9
田植	22.7 共同・人力	19.6	8.5 人力, 田植機	7.0 田植機	15.7
追肥	2.0 人力	1.0	3.3 人力	3.0 人力	1.6
除草	58.0 人力	18.1	22.3 人力, 除草剤	6.3 除草剤	9.1
灌排水管理	60.0 人力(1日2回)	17.3	27.5 人力(1日1回)	15.0 人力(2日1回)	12.6
防除	4.5 撒布機	3.5	4.5 撒布機	2.0 撒布機	2.2
稲刈・稲こぎ	24.0 人力, 動力脱穀機	51.3	7.0 小型コンバイン	2.0 小型コンバイン	28.2
もみ乾燥 もみすり	5.7 乾燥機, もみすり機	6.2	5.7 乾燥機, もみすり機	0.4 ライスセンター	5.3
合計	198.6	148.8	91.1	37.3	94.8

資料：新屋地区は新屋土地改良区調べ  
富山県は富山農林水産年報(1969~70), (1972~73)





入善町浦山新地区におけるチューリップ球根栽培と酪農の推移

# 浦山新地区の 就業調査

- ・1967年度は役場の資料
- ・1972年以降は聞き取りによる

①	小野寺 (第1号)	主 妻 49	夫 43	母 66	父 67	子 66	1.7, 0.3, 1.8
②	佐々木昭太郎	主 妻 51	夫 50	母 26	父 24	子 25	1.1, 0.3, 1
③	千尋和夫	主 妻 47	夫 44	母 29	父 24	子 24	6.7, 0.1, 6.8
④	佐々木和夫	主 妻 44	夫 40	母 68	父 68	子 68	3.5, 0.1, 3.6
⑤	千尋和夫	主 妻 60	夫 58	母 26	父 26	子 26	2.0, 0.2, 2.2

# 浦山新地区の農外変化

1967年

	男 子						女 子						合計
	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
会 社 員	16	9		1		26	7	1	2			10	36
公務・団体職員	9	2	5	3	1	20	2		1			3	23
日 稼	1	5	13	10		29		2	2	4		8	37
出 稼	3	4	14	8	2	31			1			1	32
そ の 他	1	2	3			6	1				1	2	8
合 計	30	22	35	22	3	112	10	3	6	4	1	24	136

1972年

	男 子						女 子						合計
	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
会 社 員	22	17	7	1		47	8	10	8			26	73
公務・団体職員	9	7	3	3	1	23	6	2	2			10	33
日 稼	1	5	5	12	5	28		7	9	8	2	26	54
出 稼	1	6	11	9	4	31			2			2	33
そ の 他	6		1			7	5				1	6	13
合 計	39	35	27	25	10	136	19	19	21	8	3	70	206

資料：入善町税務課資料



# 浦山新地区の就業構造変化

1967年

就業の組み合わせ	戸数	経営規模 (ha)				
		~0.5	~1.0	~1.5	~2.0	2.0~
農業(稲)(稲+乳牛)(稲+タバコ) (稲+乳牛+チューリップ)	16	3	4	6	3	
農業+県外出稼	18	4	4	8	2	
農業+県外出稼+日稼	4		2	1	1	
農業+日稼	15	1	4	4	4	2
農業+県外出稼+会社員	8	1	3	2	2	
農業+日稼+会社員	12		3	8	1	
農業+日稼+公務・団体職員	5		3	1	1	
農業+会社員	14	7	4		3	
農業+公務・団体職員	4	1		3		
農業+大工	3	2		1		
公務・団体職員	3					
その他	4					
合 計	106	19	27	34	17	2

1972年

就業の組み合わせ	戸数	経営規模 (ha)				
		~0.5	~1.0	~1.5	~2.0	2.0~
農業	1				1	
農業+県外出稼	5	2	1		1	1
農業+県外出稼+日稼	7	3	1	1	2	
農業+日稼	11	3	1	4	1	2
農業+県外出稼+会社員	9		2	5	2	
農業+県外出稼+公務・団体職員	2				2	
農業+日稼+会社員	15		3	6	5	1
農業+日稼+公務・団体職員	4	2	1	1		
農業+県外出稼+日稼+会社員	3	1	1	1		
農業+日稼+会社員+公務・団体職員	4	1	1		2	
農業+会社員	20	3	9	3	5	
農業+公務・団体職員	7	3		1	2	1
農業+会社員+公務・団体職員	4		1	1	2	
農業+大工	5	1	1	2	1	
公務・団体職員	2					
その他	6					
合 計	105	19	22	25	26	5

資料：入善町税務課資料，聞き取りによる

# 調査のプロセス(3)

- 農外就業先(工場のリスト)のデータを役場で収集した。
- 重要な農外就業先である電子部品工場や縫製工場、自動車部品などの工場で聞き取りを行った。電子部品工場では、勤務状況などの非常によいデータが得られた。
- 土地改良区の地図を転写、空中写真を購入し、過去の景観復元と現状を現地調査をした。
- それを証拠だてる景観写真を撮影した。
- 黒部川扇状地農村の事例が他の地域と比較してどのような特徴があるかを明らかにした。
- 既存のデータを加えることにより農村の変貌過程を提示し、その意義を従来の研究を用いて説明した。

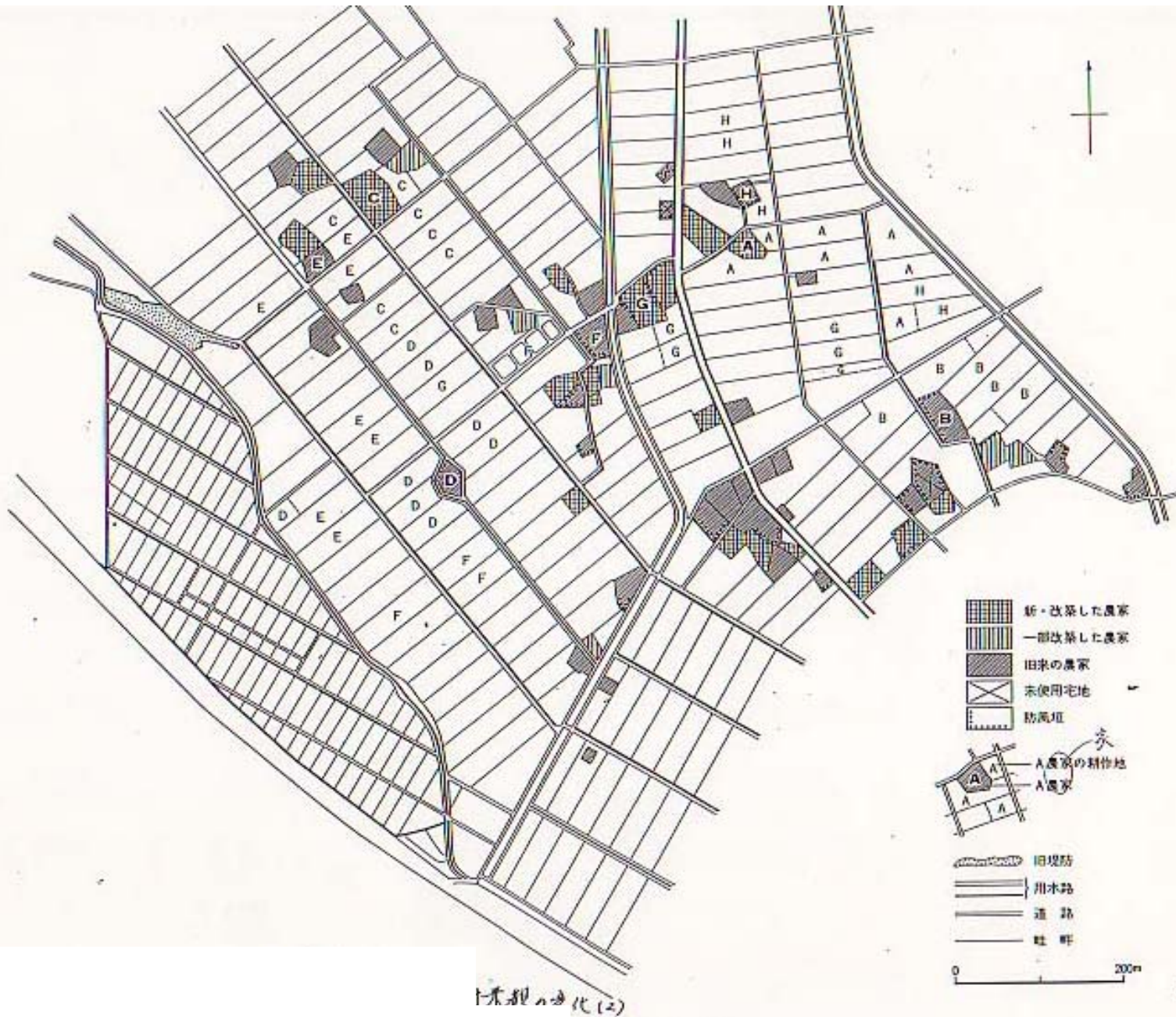


圃場整備事業後に立地した農村工場(1983年7月)



入善町浦山新地区における圃場整備事業前の耕地と宅地(1964年)





入善町浦山新地区における圃場整備事業後の耕地と宅地(1974年)

1969年8月入善町  
新屋土地改良区撮影



1970年3月入善町新屋土地改良区撮影



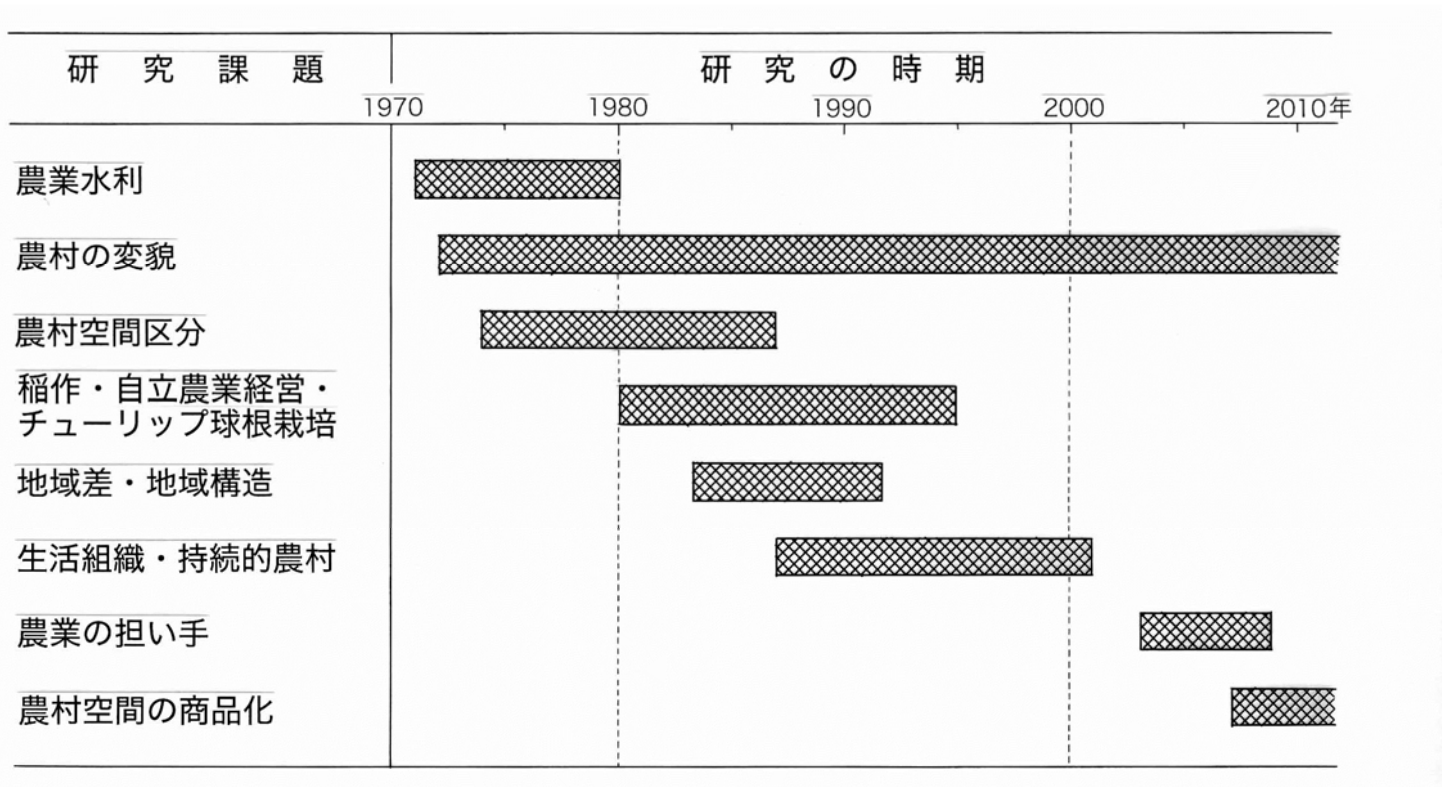
1975年4月撮影



黒部川扇状地における景観変化

# 黒部川扇状地における農村変貌

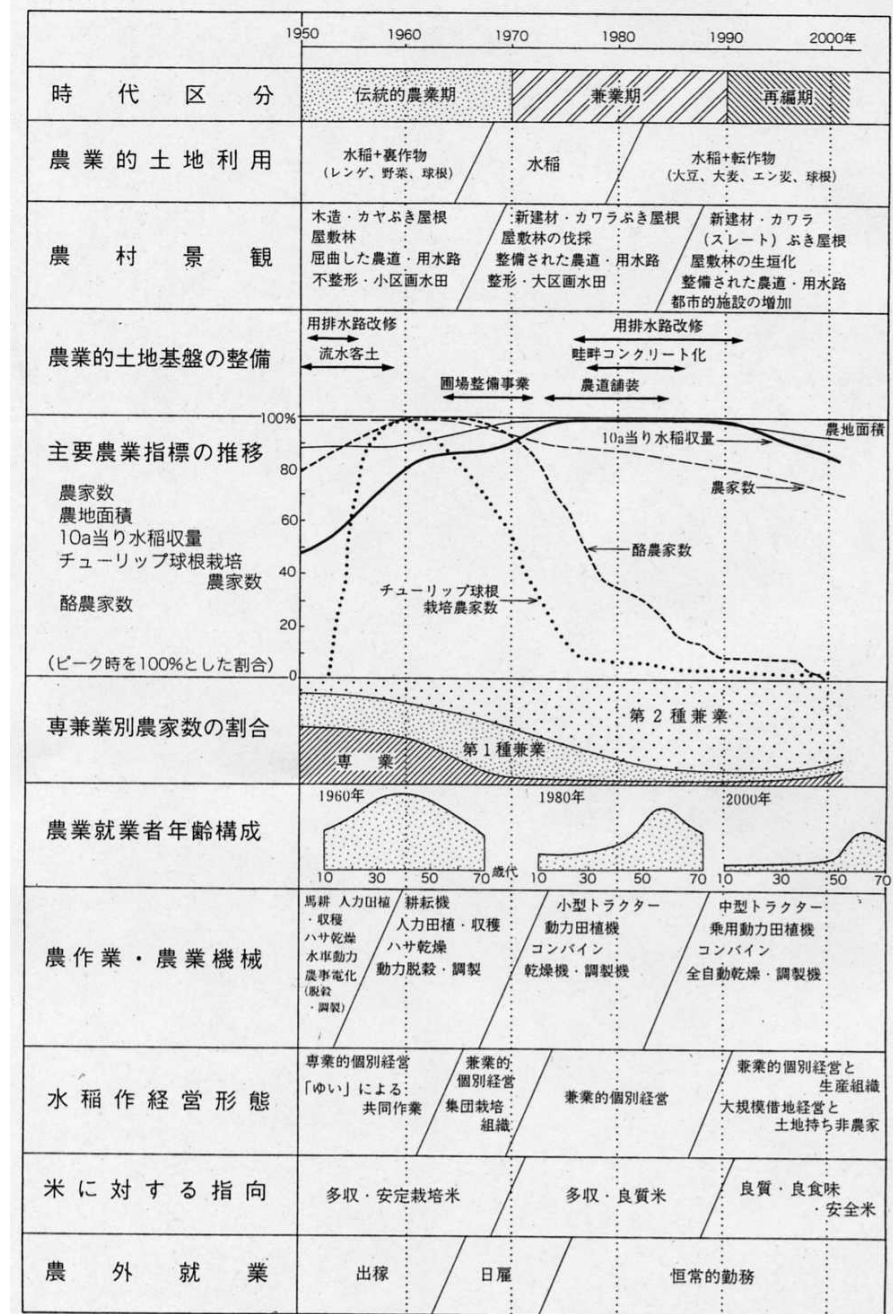
- 圃場整備事業が始まる以前(1965年以前)
  - 農業重視(稲作・酪農・球根)＋日雇・出稼
  - 伝統的景観、伝統的生活様式
- 圃場整備事業の完了(1971年以降)
  - 稲作＋恒常的通勤
  - 近代的景観、生活様式の変化
- 農家の就業において、農業が単純化する一方、他産業就業が組み込まれ、全体として複雑な就業構造



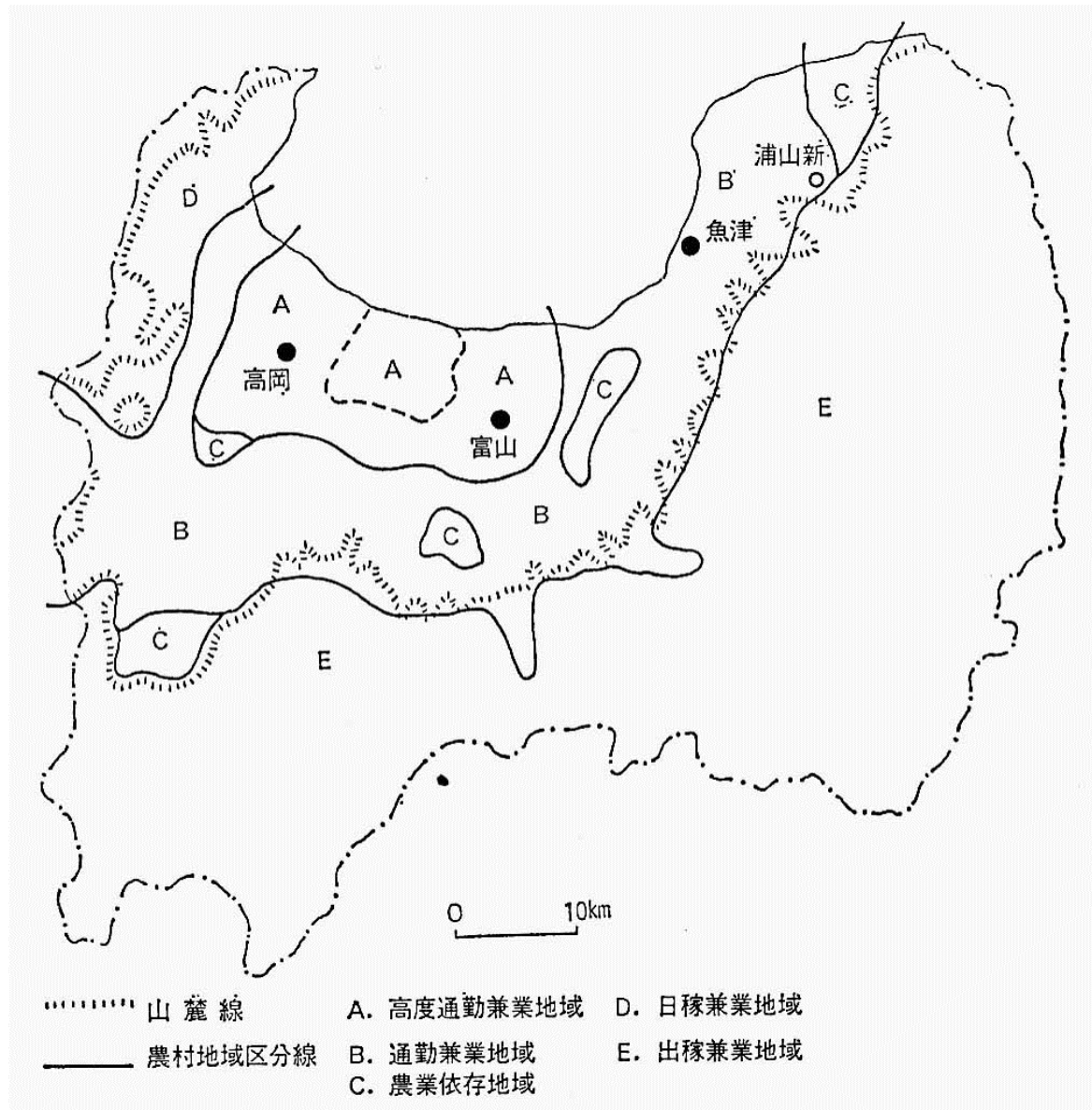
# 次の展開

- 黒部川扇状地のさらなる農村変貌
- 就業構造からみた日本の農村空間区分(山本正三先生のアイデア)
- 黒部川扇状地の水稲作・チューリップ球根・自立農業経営
- 黒部川扇状地の地域差・地域構造
- 公民館・生活組織・持続的農村
- 農業の担い手(集落営農・大規模借地経営)
- 農村空間の商品化(フィールドミュージアム)

# 黒部川扇状地 における農村 変貌の過程



# 日本の農村空間区分



# 山形県朝日町におけるエコミュージアムによる地域振興に関する地域調査手順

- エコミュージアムの形成
- エコミュージアムの構成と活動(エリア、コア、サテライト)
- 朝日町の地域づくり活動
- 朝日町における地域振興の展開
- エコミュージアムによる地域振興

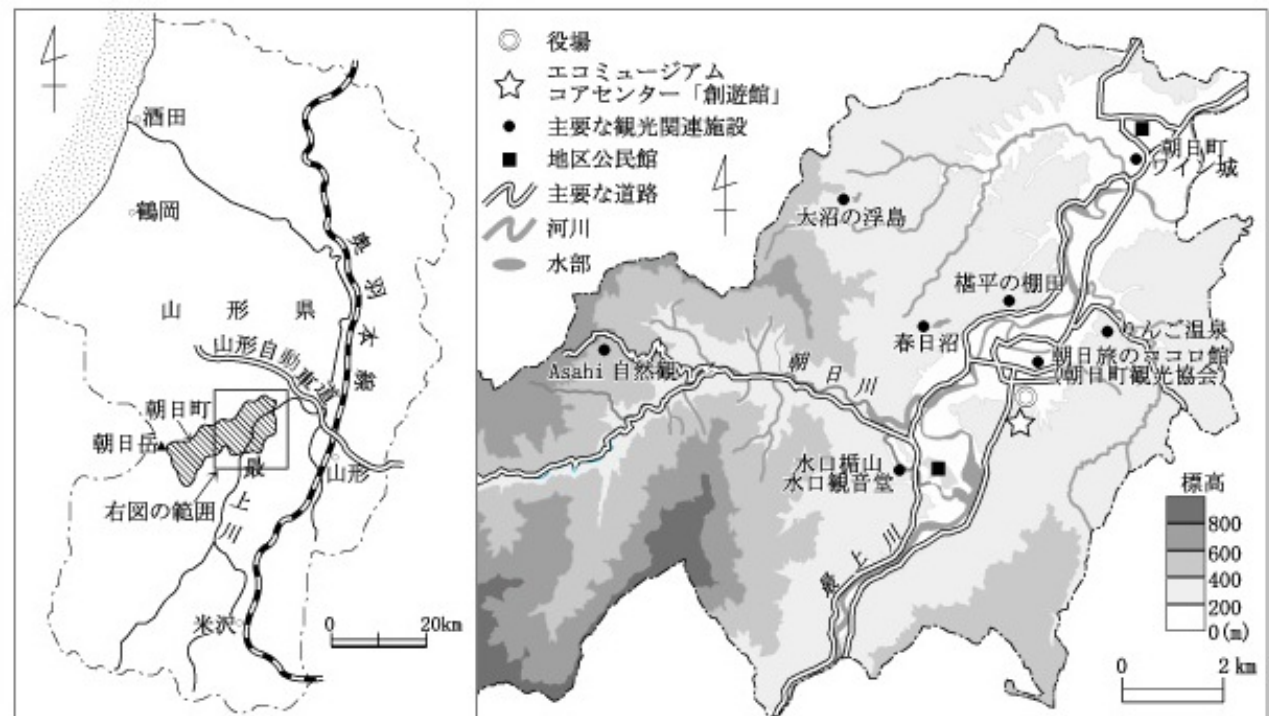


図1 研究対象地域



# 調査のプロセス

- エコミュージアムの先進事例として有名な山形県朝日町におけるエコミュージアムによる地域振興の状況を知りたい。
- 主要な組織・施設へのアポイントメント
- 調査日程、調査項目、収集したい資料の整理
  - 朝日町政策推進課 佐藤氏
  - 朝日町エコミュージアム協会 長岡理事長
  - 朝日町観光協会 川越氏
  - 朝日町教育委員会 白田氏
- 現地での調査
  - 朝日町ワイン(白田氏)、朝日自然観、常磐地区(阿部氏)、八沼地区(田川氏)、大沼地区(最上氏)、くぬぎ平棚田(志藤氏)
- 必要な資料の収集

# 調査日程

あらかじめ主要な聞き取り場所にアポイントメントをとり、短期間に調査をする。

## 調査日程

日時		調査先	電話
8月2日 (火)	午前	8:00 筑波大学出発 12:00 レンタカー借用 ○トヨタレンタカー寒河江店 : 寒河江市栄町 7-1	0237-86-0100
	午後	13:00 朝日町政策推進課 (佐藤氏) : 朝日町宮宿 1115	0237-67-2112
		○朝日自然観宿泊: 朝日町白倉 745-1	0237-83-7111
8月3日 (水)	午前	9:30 エコミュージアム協会	0237-67-2128
	午後	13:30 常盤地区区長 (阿部氏) ○水口十一面観音: 住宅地図 46 頁	0237-67-2158
		13:30 八ツ沼地区区長 (田川氏) ○八ツ沼ふれあい交流館 : 朝日町三中字八ツ沼甲 566-2	0237-67-6746
		○朝日自然観宿泊: 朝日町白倉 745-1	0237-83-7111
8月4日 (木)	午前	9:00 朝日町観光協会 (川越氏) ○あさひ旅のココロ館 : 朝日町宮宿 1175-2	0237-67-2134
	午後	13:00 朝日町ワイン (白田氏) : 朝日町大谷字高野 1080	0237-68-2611
		13:30 大沼地区区長 (最上氏) ○大沼公民館: 朝日町大沼 294-4	0237-68-2175
		○朝日自然観宿泊: 朝日町白倉 745-1	0237-83-7111
8月5日 (金)	午前	9:30 榎平棚田 (志藤氏) ○一本松公園: 住宅地図 24 頁	090-6225-3763
	午後	サテライトエリアの見学後、朝日町発仙台へ ○スーパーホテル仙台・国分町宿泊 : 仙台市青葉区国分町 2-14-23	022-722-9000
8月6日 (土)	午前	9:00 石巻の被災地視察	
	午後	筑波大学着	

# エコミュージアムの形成

- 1989年 家族旅行村「朝日自然観」開設
- 1989年 エコミュージアム研究会設立
- 1991年 第3次朝日町総合開発基本構想・基本計画策定  
この間、様々なシンポジウム開催
- 1999年 エコミュージアムガイドの会(町の案内人)設立
- 1999年 NPO法人朝日町エコミュージアム協会発足
- 2000年 第4次朝日町総合発展計画策定
- 2000年 朝日町エコミュージアムセンター「創遊館」開設  
この間、エコミュージアム普及事業、エコ紀行、シン  
ポジウム、ワークショップ
- 2008年 第5次朝日町総合発展計画策定

# 朝日町エコミュージアムのコア(核)



# 16のサテライトエリア

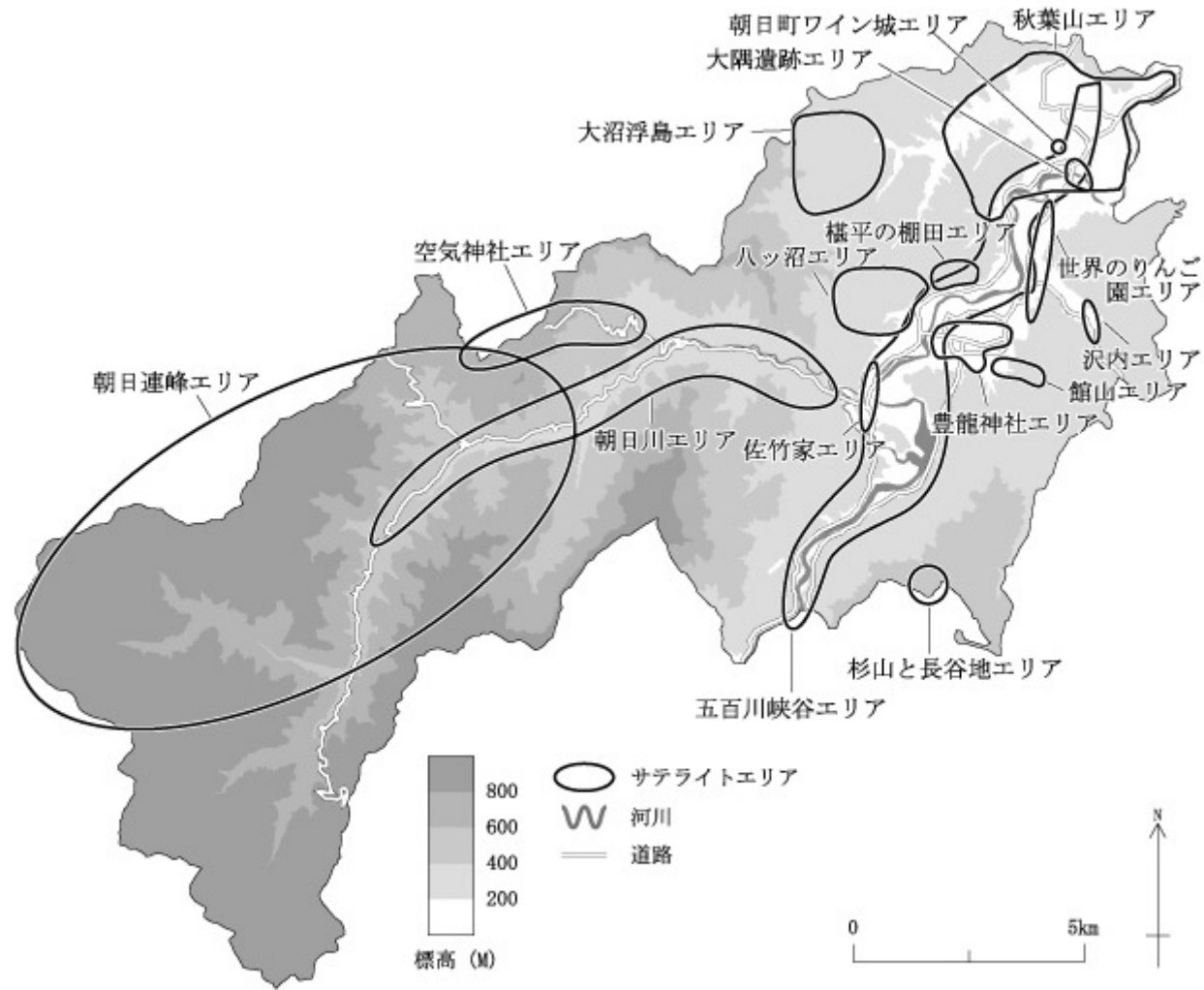


図5 朝日町におけるサテライトエリアの分布

(朝日町エコミュージアムのホームページにより作成)

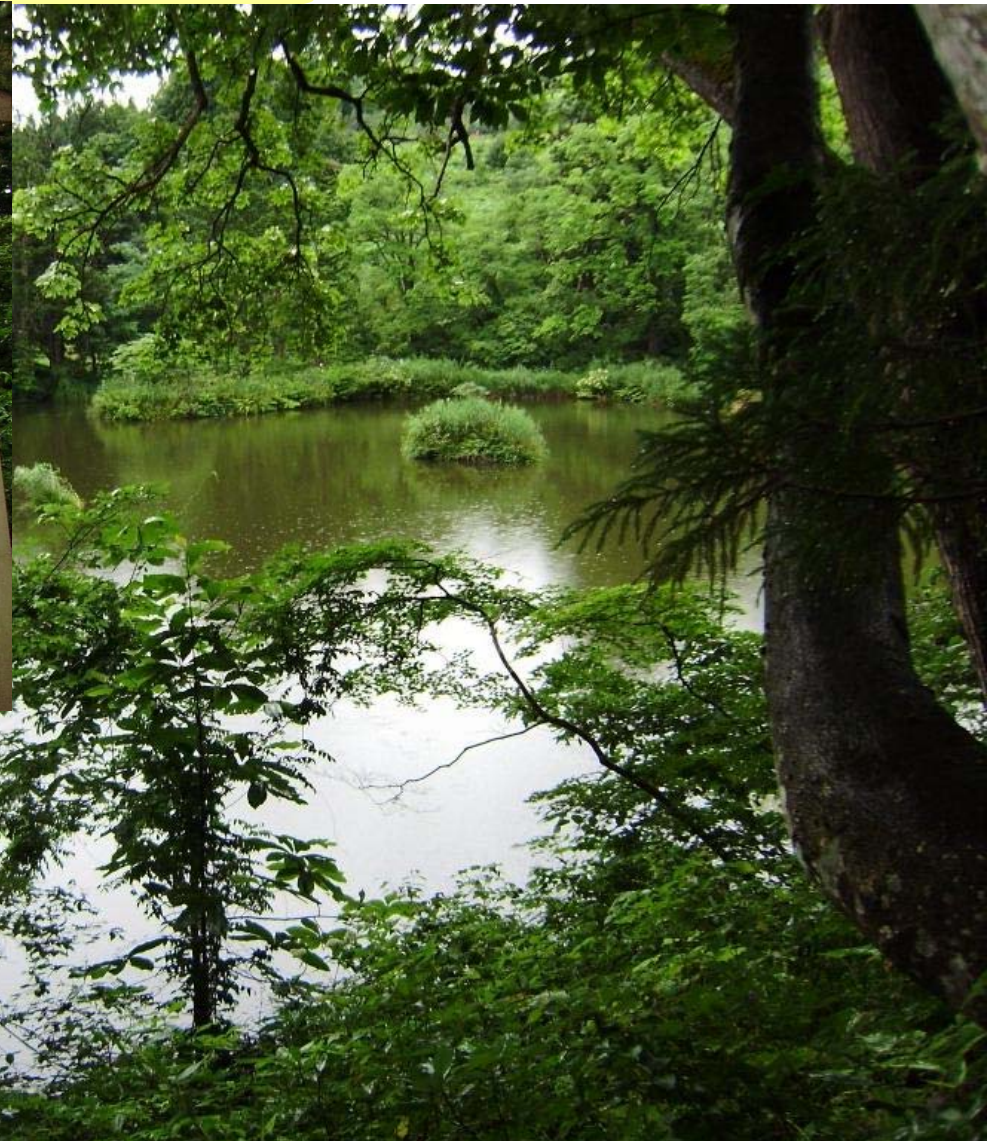
# 観光施設を核とするサテライトエリア —Asahi自然観—



# 観光施設を核とするサテライトエリア —朝日町ワイン城—



# 外部者を意識した地域の構成と活動 地域づくり活動—大沼浮島とその周辺—





# 外部者を意識した地域資源の活用による 地域づくり活動ーくぬぎ平の棚田ー



# 地元住民のための地域資源の掘り起こしによる地域づくりー八沼地区ー



春日沼

図13 朝日町八ッ沼地区・能中地区

(現地調査により作成)

# 地元住民のための地域資源の掘り起こしによる地域づくりー楯山の整備ー

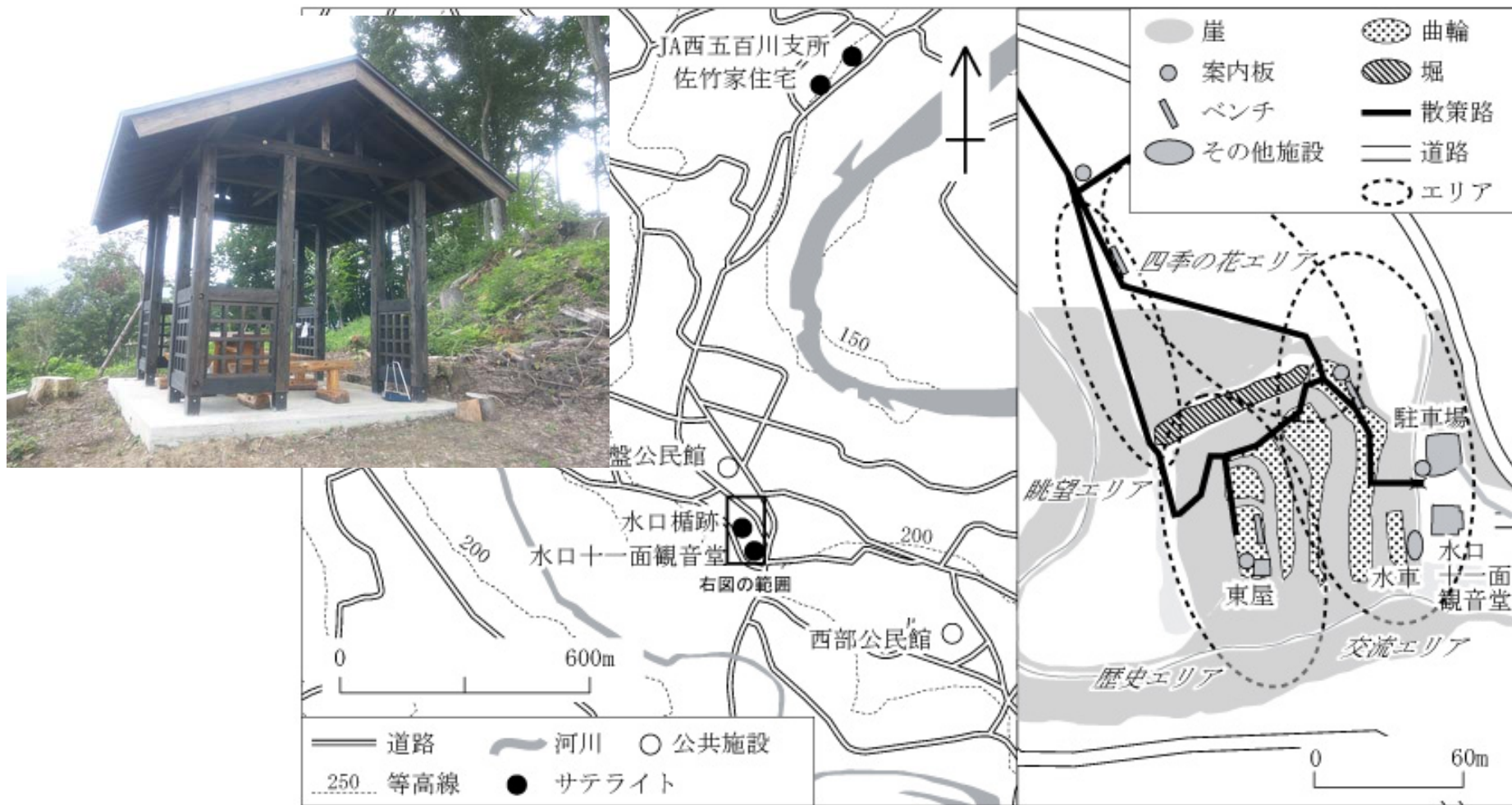


図16 朝日町常盤地区におけるサテライトの分布と楯山の整備計画

(NPO法人朝日町エコミュージアム協会、楯山を整備する会提供資料により作成)

# 朝日町における地域振興の展開

- 朝日町総合計画
- 朝日町観光まちづくり計画
- 朝日町ので地域振興政策

産業創造推進機構

地域提案型交付金制度

志藤六郎むらおこし基金補助事業

職員地域支援担当制度

定住促進ビジョン

その他(あさひ未来塾、若者リーダー育成、地域村おこし協力隊)

# エコミュージアムによる地域振興

- 農村空間の商品化の1つの形態としての景観・環境の保全や農村の社会文化の理解による生活の質の向上の事例として、朝日町のエコミュージアム活動を取り上げた。
- 朝日町における様々な地域づくり活動は、いずれもエコミュージアムを強く意識して進められているものではないが、地元住民が自らのおかれた自然環境や文化遺産といった地域資源を自ら活用している点は、エコミュージアム活動と同質なものといえる。
- これらの地元住民の活動は、朝日町の様々な政策によって支えられていた。
- 長年にわたるエコミュージアムの活動と行政主導によるエコミュージアム方式の地域づくりが、実質的に地元住民に浸透していた。

# 茨城県守谷市における新しい都市景観の形成に関する調査手順

- つくばエクスプレスの開業にともない、守谷駅周辺が再開発され、どのようにして都市が形成されるのかを観察する絶好の機会を得た。
- 2005年8月から1年に一度は守谷駅を中心とした約1.5km四方の土地利用調査と写真撮影をして、継続的に調査・観察をすることにした。
- 初年度はベースマップに都市計画図を使用した但、翌年からゼンリンの住宅地図(1500分の1)を用いることにした。
- 1回の調査に4日程度が必要。
- 用途、階数、駐車場(時間貸しの料金別、月極の別、舗装か未舗装)の記録をした。

# 写真1 2005年8月 における守谷駅 北側の土地利用



# 写真2 2006年8月 における守谷駅北 側の土地利用





# 写真3 2007年12月における守谷駅北側の土地利用



# 写真4 2008年12月における守谷駅北側の土地利用



# 写真5 2009年12月における守谷駅北側の土地利用



# 写真6 2010年12月における守谷駅北側の土地利用



# 写真7 2011年11月 における守谷駅 北側の土地利用



# これからの調査について

- 土地利用調査の継続(2012年以降)
- 景観記録の継続(2012年以降)
- 開発以前の土地利用の復原(1999年頃)
  - ゼンリン住宅地図、2.5万分の1地形図、空中写真
- 土地利用図の清書(種目別、建物階数、駐車場)と土地利用の分析
- 土地開発計画とその実施に関する資料収集
- 開発主体(市役所、耕地整理組合など)からの聞き取り
- 住民の動向
  - 旧住民の動向、新住民の転入状況
- どのようにして都市は形成されるか
  - 空き地、駐車場、高層化、業種変化